



作品タイトル：演奏中

《付喪神の元となった実物写真》



デザイン題材： ピアノ

《そのものへの想いを込めたデザインコンセプト》

私は、保育園の頃から共に過ごしてきたピアノを付喪神にしました。

ピアノそのものを付喪神に変えるというよりも、人の前で演奏する時のピアノと演奏中に見える景色、周りの視線、全てを掛け合わせた付喪神としました。

演奏中の楽しい気持ち、緊張、その曲の情景など様々な感情、美しい音色をアートとして表現しました。



作品タイトル： 耳の怪・化け亀

《付喪神の元となった実物写真》



デザイン題材： イヤリング

《そのものへの想いを込めたデザインコンセプト》

「ばあちゃんのお気に入り。耳元で愛され、命を宿した亀の付喪神」

おばあちゃんが愛用している、不思議な模様のパステルカラーのイヤリング。そのお洒落な形から亀の甲羅を想像させ生まれた付喪神です。おばあちゃんの耳元でずっと日常を見守ってきたイヤリングが、持ち主の愛着によってちょっとお茶目で不気味な妖怪に変化。



作品タイトル： 花鏡

《付喪神の元となった実物写真》



デザイン題材： 手鏡

《そのものへの想いを込めたデザインコンセプト》

この付喪神は、私が数年前に押し花教室で制作した手鏡から生まれた存在です。
長い年月を経て鏡が付喪神となったとき、それは鏡に映る姿だけでなく、持ち主が大切に
してきた思い出や美意識までも映し出す存在となりました。
そして、その記憶を花の姿として鏡の中に留め置き、持ち主に忘れていた思い出をそっと
思い出させます。
この付喪神は、「記憶を映す鏡の精」として、持ち主の大切な記憶を花として
保存し続ける役割を担っています。



作品タイトル：うつしよの鏡

《付喪神の元となった実物写真》



デザイン題材：母が長年使っていた鏡

《そのものへの想いを込めたデザインコンセプト》

母が身だしなみを整える際に使っていた鏡は学生時代、社会人、結婚という人生の節目などを写してきました。付喪神の穏やかな表情には、持ち主を優しく見守り続けてきた存在であること、髪飾りや着物には和の要素を入れて鏡が積み重ねてきた時間や思い出を表現しました。



作品タイトル： ピアスの親子神

《付喪神の元となった実物写真》

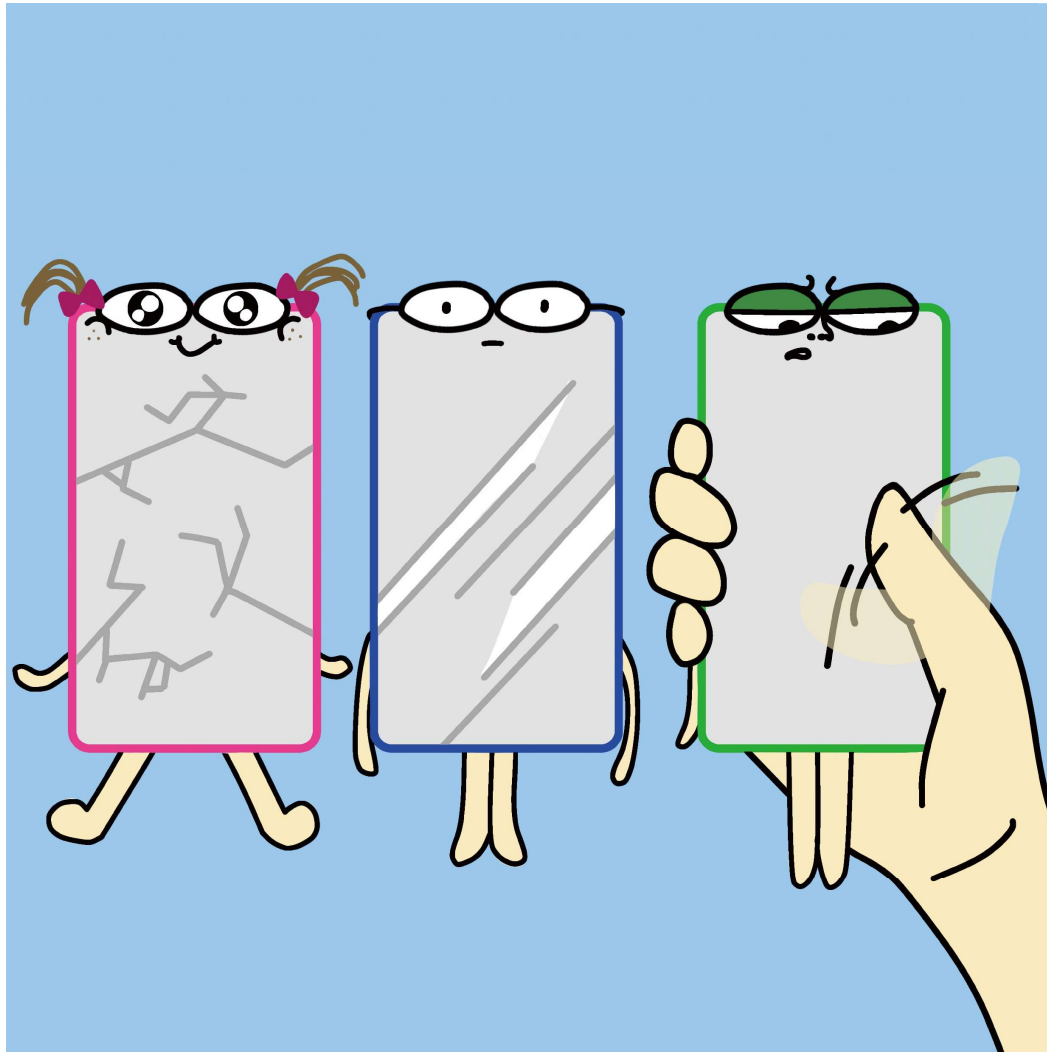


デザイン題材： 母のピアス

《そのものへの想いを込めたデザインコンセプト》

母が使っていたピアスです。母からもらいました。

ピアスは二つなので親子を描いてみました。大切にされていることを再現したかったので抱き合っている様子にしました。



作品タイトル： スマホんず

《付喪神の元となった実物写真》



デザイン題材： スマホ

《そのものへの想いを込めたデザインコンセプト》

現代を生きる私たちに欠かせないスマホを題材にしました。あるのが当たり前になっているスマホですが、大切に使うべきだなと思ったので題材にしました。



作品タイトル： かき氷を狙うスプーンの付喪神

《付喪神の元となった実物写真》



デザイン題材： スプーン

《そのものへの想いを込めたデザインコンセプト》

小さい頃から使ってきたこのスプーンには、甘い思い出がたくさん刻まれています。長年大切に使われてきたスプーンが付喪神となり、人々に幸せを届ける存在になりました。夏祭りの定番であるかき氷をモチーフに、甘いものが大好きな付喪神がかき氷を狙う場面を描いています。ポップでかわいらしいイラストによって、夏の楽しさが伝わる作品を目指しました。